

令和3年5月14日

各位

トモニホールディングスグループの令和3年3月期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和3年3月期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記
1. トモニホールディングス
(1) 令和3年3月期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）連結業績

当期における損益状況は、経常収益は、国債等債券売却益及び株式等売却益が増加しましたが、有価証券利息配当金が減少したこと等により、前期比346百万円減少して70,687百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損及び国債等債券償却が増加しましたが、前期に計上した徳島銀行と大正銀行の合併に伴う一時的な経費がなくなるなど、営業経費が減少したこと等により、前期比3,461百万円減少して56,194百万円となりました。その結果、経常利益は前期比3,115百万円増加して14,493百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比1,848百万円増加して9,984百万円となりました。

当期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は前期末比414,713百万円増加して4,407,903百万円、純資産残高は前期末比23,180百万円増加して243,183百万円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は前期末比296,773百万円増加して3,896,271百万円、貸出金残高は前期末比176,938百万円増加して3,083,708百万円、有価証券残高は前期末比57,434百万円増加して699,488百万円となりました。

		令和3年3月期	
			前期比
損益	経常収益	70,687百万円	△346百万円
	経常費用	56,194百万円	△3,461百万円
	経常利益	14,493百万円	3,115百万円
	親会社株主に帰属する当期純利益	9,984百万円	1,848百万円
		令和3年3月期末	
			前期末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	4,407,903百万円	414,713百万円
	純資産	243,183百万円	23,180百万円
	預金等（譲渡性預金を含む）	3,896,271百万円	296,773百万円
	貸出金	3,083,708百万円	176,938百万円
	有価証券	699,488百万円	57,434百万円
	自己資本比率（国内基準）	8.82%	0.30%

(2) 令和4年3月期第2四半期累計期間（令和3年4月1日～令和3年9月30日）及び通期（令和3年4月1日～令和4年3月31日）連結業績予想

次期（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響等を勘案し、有価証券関係損益及び与信関連費用の計上を保守的に見積っていること等により、以下の連結業績を予想しております。

① 令和4年3月期第2四半期累計期間

（単位：百万円）

	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益
令和4年3月期 第2四半期累計期間	7,000	4,650

② 令和4年3月期通期

（単位：百万円）

	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
令和4年3月期 通期	13,800	9,150

2. 徳島大正銀行

(1) 令和3年3月期(令和2年4月1日~令和3年3月31日)単体業績

【前年同期(決算ベース)比】

当期における損益状況は、経常収益は、合併に伴い貸出金利息が増加したこと等により、前期比4,732百万円増加して33,873百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前期比5,118百万円増加して28,251百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前期比3,556百万円増加して10,127百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少したこと等により、前期比3,886百万円増加して8,803百万円となり、当期純利益は、前期比2,623百万円増加して6,055百万円となりました。

【前年同期(合算ベース)比】

経常収益は、有価証券利息配当金及び貸出金利息が減少したこと等により、前期比2,523百万円減少して33,873百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと等により、前期比705百万円減少して28,251百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前期比2,440百万円増加して10,127百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少したこと等により、前期比2,226百万円増加して8,803百万円となり、当期純利益は、前期比1,421百万円増加して6,055百万円となりました。

当期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前期末比140,680百万円増加して2,149,194百万円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前期末比145,001百万円増加して2,266,441百万円となりました。また、貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前期末比112,306百万円増加して1,742,483百万円となりました。なお、自己資本比率(国内基準)は8.02%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップを図るとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取引先企業への資金繰り支援を積極的に行いましたが、前期末比1,782百万円増加して24,797百万円、総与信に占める割合は1.40%となりました。

		令和3年3月期	前期 (決算ベース)比	前期 (合算ベース)比
損益	経常収益	33,873百万円	4,732百万円	△2,523百万円
	コア業務粗利益	28,251百万円	5,118百万円	△705百万円
	コア業務純益	10,127百万円	3,556百万円	2,440百万円
	経常利益	8,803百万円	3,886百万円	2,226百万円
	当期純利益	6,055百万円	2,623百万円	1,421百万円
	本業利益	5,464百万円	3,405百万円	2,771百万円
	与信関連費用	1,710百万円	△465百万円	△193百万円
		令和3年3月期末	前期末比	
主要勘定残高・ 諸比率	総資産	2,421,565百万円	183,108百万円	
	預金等(譲渡性預金を含む)	2,149,194百万円	140,680百万円	
	総預り資産	2,266,441百万円	145,001百万円	
	貸出金	1,742,483百万円	112,306百万円	
	有価証券	369,854百万円	7,493百万円	
	自己資本比率(国内基準)	8.02%	0.21%	
不良債権	金融再生法開示債権額	24,797百万円	1,782百万円	
	総与信に占める割合	1.40%	0.01%	

(注) 各損益における前期比の計数は、決算ベースは令和2年1月以降の徳島大正銀行の計数と、平成31年4月から令和元年12月までの旧徳島銀行の計数を合算したものと比較した計数を、合算ベースは令和2年1月以降の徳島大正銀行の計数と、平成31年4月から令和元年12月までの旧徳島銀行及び旧大正銀行の計数を単純合算したものと比較した計数を記載しております。

(2) 令和4年3月期第2四半期累計期間(令和3年4月1日~令和3年9月30日)及び通期(令和3年4月1日~令和4年3月31日)単体業績予想

① 令和4年3月期第2四半期累計期間

(単位: 百万円)

	経常利益	中間純利益
令和4年3月期 第2四半期累計期間	3,850	2,750

② 令和4年3月期通期

(単位: 百万円)

	経常利益	当期純利益
令和4年3月期 通	8,050	5,450

3. 香川銀行

(1) 令和3年3月期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）単体業績

当期における損益状況は、経常収益は、国債等債券売却益及び株式等売却益が増加したこと等により、前期比1,780百万円増加して29,651百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと等により、前期比26百万円減少して21,840百万円となりましたが、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前期比362百万円増加して7,258百万円となりました。

経常利益は、株式等関係損益が増加したこと等により、前期比1,926百万円増加して5,784百万円となり、当期純利益は前期比1,671百万円増加して4,270百万円となりました。

当期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前期末比156,820百万円増加して1,752,166百万円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前期末比159,320百万円増加して1,889,370百万円となりました。また、貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前期末比64,012百万円増加して1,350,360百万円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.63%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップを図るとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取引先企業への資金繰り支援を積極的に行いましたが、前期末比2,299百万円増加して28,293百万円、総与信に占める割合は2.05%となりました。

		令和3年3月期	
			前期比
損益	経常収益	29,651百万円	1,780百万円
	コア業務粗利益	21,840百万円	△26百万円
	コア業務純益	7,258百万円	362百万円
	経常利益	5,784百万円	1,926百万円
	当期純利益	4,270百万円	1,671百万円
	本業利益	3,776百万円	776百万円
	与信関連費用	770百万円	273百万円
		令和3年3月期末	
			前期末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	1,982,308百万円	227,319百万円
	預金等（譲渡性預金を含む）	1,752,166百万円	156,820百万円
	総預り資産	1,889,370百万円	159,320百万円
	貸出金	1,350,360百万円	64,012百万円
	有価証券	327,308百万円	49,604百万円
	自己資本比率（国内基準）	9.63%	0.42%
不良債権	金融再生法開示債権額	28,293百万円	2,299百万円
	総与信に占める割合	2.05%	0.06%

(2) 令和4年3月期第2四半期累計期間（令和3年4月1日～令和3年9月30日）及び通期（令和3年4月1日～令和4年3月31日）単体業績予想

① 令和4年3月期第2四半期累計期間 (単位：百万円)

	経常利益	中間純利益
令和4年3月期 第2四半期累計期間	3,000	1,850

② 令和4年3月期通期 (単位：百万円)

	経常利益	当期純利益
令和4年3月期 通	5,300	3,500

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島大正銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-0102
TEL：088-656-1118
TEL：087-812-5132